

# 高校・保健体育の新学習指導要領に「がん教育」

## 奈良県立医科大学がんゲノム・腫瘍内科学講座 武田真幸教授の講義を拝聴して

(文・写真／本誌理事 川崎香織)

「二人に一人が、がんになり、三人に一人が、がんで亡くなっています」

奈良県立高田高校1年生380名が集まる体育館に奈良県立医科大学がんゲノム・腫瘍内科学講座 武田真幸教授の声が静かに響いた。

決してがん保険のCMではない。人生100年時代と言われているが、人類に対する大きな脅威のひとつである、がん。

平成30年告示の高等学校学習指導要領が令和4年度から年次進行で実施することとなり、がん教育が1つの単

元として扱われるようになった。

奈良県教育委員会事務局 健康・安全教育課では、奈良県下の公立学校に専門医師によるがんの講義を行う「プロジェクト」を平成26年度より立上げ、平成26年はモデル校として中学校2校、翌年の平成27年より高校を対象とした。今年度は、奈良県下の高校12校に対して専門医師による講義を行う。同課はコーディネーターとして学校と専門医師の日程調整を行い、講義内容については、予め講演内容の希望を学校側から提出してもらい、目標・めあて、



奈良県立高田高校での講義のようす